

第23回アジアメガシティー大学間セミナー杭州会議 (IUSAM2018)

中国・杭州の浙江大学にて、2018年5月5日、6日に、第23回アジアメガシティー大学間セミナー (IUSAM2018) が開催された。今回は「仮想・現実社会における空間シェアリング」をテーマに、台湾を含めた中国、韓国、フィリピン、ロシアそして日本から100名弱の研究者、教員、学生が参加し、技術開発と都市空間、権力・社会・都市空間、文化・心理・アートと都市空間という三種類のセッション別に報告が行われた。筆者は「移動パターンの変化と東京圏形成—第8回人口移動調査の結果から」というタイトルで報告を行った。

シェアリングについては、歴史を通じたシェアリングから、若者と高齢者との世代間シェアリング、uberなどの公共交通におけるシェアリングまで、様々な切り口があったが、特に中国で著しく発展している自転車のシェアリングについては、放置問題が悪化していることもあり、シェアリングに対する負の面も指摘された。地域的なシェアリングの一例として、香港・マカオ・広州など9都市を包括する「大湾岸地域 Greater Bay Area」の開発についての紹介があったが、現在人口6700万人のこの地域は今後1～2億人にもなると見込まれているのである。若者人口はすでに減少しつつある中国において、果たしてこれまでと同様の人口流入が見込めるのかどうか、疑問も生じた。

(林 玲子 記)

国連 ESCAP 高齢化に関するサイドイベント

タイ・バンコクにて、国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 第74回委員会のなかで、「我々の地域における人口高齢化：挑戦と機会」と題するサイドイベントが、日本政府と UNFPA の共催で2018年5月15日 (火) に開催された。佐渡島駐タイ日本国大使、ロンドン UNFPA 副事務局長の挨拶の後、ヘルプエイジ・インターナショナルのクリーン氏、タイ公衆衛生省のトンタナ氏および筆者で構成されるパネルディスカッションが、UNFPA アジア・太平洋地域事務局長のビョーン氏の司会により行われた。ESCAP 委員会のテーマが「格差」であることを鑑みて、アジアで進行する人口高齢化に対し、家族構成、ジェンダー、社会保障のアクセス等に対する格差がどのように生じているのか、国によりどう違うのか、といった点について、パネリストそれぞれから報告した。また、最後はアクター ESCAP 事務局長により締めくくられた。

(林 玲子 記)